

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

8月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ インフルエンザ：1件（前月比0.5、前年比0.3）でした。7月、8月ともに一桁で推移しており、流行の兆しは見られません。

小児科定点

（全体傾向）

2,652件（前月比0.81、前年比0.86）であり、前月比、前年比ともに減少しています。感染性胃腸炎993件、流行性耳下腺炎477件、ヘルパンギーナ251件が大きく占めています。流行性耳下腺炎が前年比3.7と著明に増加しており、今後の発生動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 164件（前月比3.4、前年比2.8）であり、前月比、前年比ともに増加しています。7月からは連続して増加しており、今後は例年通りに、さらに増加していくことが推測されます。今後の動向に注意が必要です。菊池（一定点あたり7.0）が高くなっています。
2. 咽頭結膜熱 : 54件（前月比1.0、前年比1.4）でした。前年比が増加していますが、全体的には例年並みで推移しているようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 176件（前月比0.6、前年比0.9）であり、6月をピークとしてその後は連続して減少しています。宇城（8.3）が特に高くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 993件（前月比0.8、前年比1.0）でした。7月からは連続して減少しており、8月は最小値となっています。有明（39.8）、菊池（38.0）が特に高くなっています。
5. 水痘 : 48件（前月比1.1、前年比1.7）でした。本年度は1月から連続して昨年より低い値で推移していましたが、8月は初めて昨年の値を上回りました。1月からは大きな変化がなく概ね40～50人台と低い値で推移していますが、それ以上の減少傾向を認めません。定期接種としてのワクチンの2回接種を徹底するとともに、ワクチン未接種の年長児にもキャッチアップを行う必要があるようです。
6. 手足口病 : 101件（前月比0.8、前年比0.2）でした。本年度は1月より例年より著明に低い値で推移しています。今年は夏季に大きな流行はなかったようです。
7. 伝染性紅斑 : 29件（前月比0.6、前年比0.2）でした。昨年の秋頃から連続して増加しましたが、今年の1月をピークとして、以後は連続して減少しています。前年比は0.2と大きく減少しています。昨年からの流行が収束に向かっているようです。
8. 突発性発疹 : 150件（前月比1.0、前年比1.1）であり、例年並で推移しているようです。
9. 百日咳 : 0件（前月比-、前年比-）でした。8月の発生はなく、例年並みに少ない値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ : 251件（前月比0.4、前年比0.8）でした。7月をピークとして8月は減少に転じています。例年と同様に推移しているようです。天草（17.3）が特に高くなっています。
11. 流行性耳下腺炎 : 477件（前月比1.2、前年比3.7）でした。本年度は1月から例年より著明に高い値で推移しています。5月には一旦減少しましたが、以後は連続して増加しており、

今後の発生動向に特に注意が必要です。八代(28.3)が特に高くなっています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数31件(前月比0.9、前年同月比0.1)と4月以来の減少が続いています。地区別では熊本29件、菊池1件、有明1件の報告です。年齢別では20～59歳にピークがあり、約60%を占めています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症： 報告数58件(前月比1.1、前年同月比1.4)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に30件と多く見られています。年齢別は、男性では20～29歳に15件と多く、女性は15～29歳に23件と多く見られています。地区別では、熊本が43件と多く、次いで宇城5件、八代4件、御船、有明に各3件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数19件(前月比0.8、前年同月比1.5)で前月比は減少、前年同月比は増加しています。男女別は、男性に10件、女性に9件見られています。年齢別は、男性は20～70歳以上、女性も30～70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が13件と多く、次いで菊池3件、八代2件、有明に1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数9件(前月比1.5、前年同月比2.3)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に5件とやや多く見られました。年齢別は、男性は20～44歳に、女性は15～29歳に見られました。地区別は、熊本7件、菊池、有明に各1件でした。
3. 淋菌感染症： 報告数18件(前月比0.8、前年同月比0.8)で前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性に16件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は15～49歳に、女性は20～24歳に見られました。地区別では、熊本16件と多く、菊池、有明に各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数13件(前月比0.6、前年同月比0.8)でした。昨年よりやや少ない発生状況です。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数6件(前月比2.0、前年同月比1.0)でした。昨年よりやや少ない発生状況です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症： 報告数0件(前月、前年同月に同じ)でした。2年以上感染症発症報告がありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数1件（前月比 1.0、前年同月 +1）でした。年齢は50歳代です。累積では本年5例で、一昨年同時期11例より少ないものの昨年2例より多くなっています。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数7件（前月比 0.6、前年同月比 1.4）でした。昨年の同時期は累積33例でしたが、本年は53例となっており多い傾向が続きます。0歳が2例、1～4歳が2例と多くなっています。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数46件（前月比 1.0、前年同月比 1.8）でした。いったん5月頃減少したかに見えましたが2月連続の40例以上の報告となり、大きな流行であった昨年以上のペースであり注意が必要です。9歳以下で約7割を占め、1～4歳が17例と最も多くなっています。地域では水俣（12.0）、熊本（5.80）、人吉（4.0）が多くなっています。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月、前年同月に同じ）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数0件（前月より -3、前年同月に同じ）でした。

届け出対象感染症

1類感染症	：	ありませんでした	
2類感染症	：	結核	20件
3類感染症	：	腸管出血性大腸菌感染症	1件
4類感染症	：	デング熱	1件
		日本紅斑熱	1件
		レジオネラ症	3件
5類感染症	：	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
		侵襲性肺炎球菌感染症	1件